

鉄道BIG4、六角精児、森永卓郎、向谷実、前原誠司ほか 青春18きっぷの旅

旅行読売

2014 8
定価 510円

昭和34年6月29日第3種郵便物認可 通巻73号
2014年8月1日発行(毎月1回1日発行)

オトナの旅の道しるべ

鉄道好き有名人も乗った!

青春18きっぷで 出発進行

I♥鉄道
by 鉄道BIG4

夏グルメ、ガーデン街道
北海道ドライブ

温泉大好き!
ぬる湯の宿

[写真] 予讃線

17音の たより



黛まどか



まゆずみ・まどか

俳人。2002年「京都の恋」で第2回山本健吉文学賞受賞。オペラ「万葉集」「滝の白糸」(作曲:いづれも千住明)の台本執筆など俳句の枠を超えて幅広く活躍。最新刊のエッセイ集「うた、ひとひら」(新日本出版社)が好評発売中。

スペインのハボンさん①

スペインはセビーリヤの近郊にコリア・デル・リオという小さな市がある。人口3万人に満たないこの街にハボン、つまり日本という意味の姓を持つスペイン人が800人も住んでいるという。蒙古斑を持つ生まれる彼らは、自分たちが侍の末裔であると確信しているというのだ。

今から400年前の1613年10月、宮城県・石巻の月浦から一隻の大型帆船(サン・ファン・パウテイスタ号)がスペインを目指して出航した。仙台藩主、伊達政宗の命を受けた藩士、支倉常長が、宣教師のルイス・ソテロと30人の使節団、商人等を伴い総勢180名を率いた通称「慶長遣欧使節団」である。彼らの使命はスペイン国王に会い、メキシ

コの貿易の許可を得ること、領内でのキリスト教布教のための宣教師の派遣をローマ教皇に願ひ出ることだった。

一団が太平洋を横切り、メキシコを経由し大西洋を横断して、スペインのマドリッドに到着したのは翌年の12月のこと。国王フェリペ3世に謁見した常長と一行は政宗の親書を手渡し、キリスト教の洗礼を受ける。そして1615年11月、ついにローマ教皇パウロ5世との謁見が叶い、公民権まで与えられる。

一方、日本では徳川幕府によりキリスト教禁止令が発令されていた。結局、苦勞の甲斐なく貿易交渉は成

立しないまま、使節団は帰国の途につくことになる。月浦を出航して4年の歳月が経とうとしていた。

さて、一行が往復路に立ち寄ったのが冒頭のコリア・デル・リオ市だ。殊に帰途ではスペイン国王からの親書等待つため9か月間程滞在している。キリシタンへの弾圧が厳しくなった日本への帰国を躊躇する者、地元的女性と恋に落ちた者がいたとしても当然のことだろう。市内には支倉常長の像があり、日本への深い思いが感じられる。東日本震災の折にはハボンさんたちが像の前に集い、鎮魂の俳句を詠み祈りを捧げたという。

海原を行く月光を帆に孕み

イラスト
上原由祈子